うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第 9 号

発 行 日：平成10年 9 月30日
編集発行：魚津埋没林博物館
印　　刷：魚 津 印 刷 ㈱

湧き上がり、流れ落ちる水
―円筒分水―

魚津市東山地区の山すそに、ひっそりとたたずむ円筒分水。片貝川から取水された水が、直立した円筒の中心から絶え間なく湧き上がり、周囲に均等に流れ落ちています。小さな円形の滝とも言えるその形は、機能を追求した造形美といえます。

下流の耕地面積に合わせて仕切られた水は、それぞれの方向へ向かう用水路に分かれていきます。円筒分水は分水比が正確で安定していますが、建設費が割高で、分水比を変えることができないため、今ではつくられなくなりました。市内では貝田新にもあります。

（企画展「川の物語―清流片貝川に見る―」から）

片貝川の自然を見る

学芸員 石須秀知

魚津埋没林博物館では、平成10年8月5日から10月31日まで、企画展「川の物語―清流片貝川に見る―」を開催しました。魚津市内を流れる片貝川は、全長約25km、標高差約2000m、日本一とも言われる急流河川です。上流は険しい峡谷をつくり、下流は扇状地をつくっています。企画展ではそこに見られる自然や人の営みを写真で切り取り、短い物語をつけて展示しました。ここでは、企画展の中に入りきらなかったことも含め、片貝川流域の自然を紹介します。

普通、「川」といえば水の流れている部分を想像すると思います。しかしそれだけでは川の姿は分かりません。雨や雪などの水を集める山地（集水域）や、水の流れが山を削ってできた深い谷、水に運ばれた土砂がたまってできた扇状地、その地下を流れる伏流水など、川はいろいろな要素から成り立っています。山地に無数に刻まれた小さな沢が集まって大きな流れになり、それが再びいくつもの流れに分かれて平野をうるおします。ここではこれらが組み合わさったすべてを川の〝流域〟として考えます。

片貝川は源流から河口までのほぼすべてが魚津市の中を流れています。集水域となる山岳地帯をすべて含めると、その流域面積は魚津市の半分以上を占めます。この片貝川の主な源流は魚津市の最高峰、毛勝三山や僧ヶ岳などの山岳です。この山岳地帯に降る雨や雪の水を集め、東又谷、南又谷、別又谷などの支流が深いV字型の峡谷を形作っています。川底には大小の岩が積み重なり、直径5m以上の大きな岩もめずらしくありません。その岩の間をぬうように、透明で冷たい水が流れています。このきれいな水の供給を担うのが深い山地とそこに広がる森です。

片貝川流域の自然の特徴のひとつとして、植物相が豊かなことが挙げられます。源流と河口が近く大きな標高差を流れ下るため、流れに沿って1時間も車を走らせると、亜高山帯、山地帯から平野部までの環境が短い距離の中に凝縮され、地形と植生が劇的な変化を見せます。特に上流部は急な沢や滝、岩の露出した崖、山肌の崩壊した裸地など多様な環境が入り交じっています。この環境の多様さがそこに生える植物の種類を多くする一つの要因になっています。石灰岩が露出した場所もあり、そこではイワトラノオ、クモノスシダ、カラクサシダ、オウレンシダなどのめずらしいシダも見られます。

深いV字形の東又谷

クモノスシダ

上流部は冬には雪に閉ざされますが、その一方で深い谷の地形が冬の季節風を和らげる働きもあるようで、暖かい地域に生える植物も見られます。オオフジシダ、ウスヒメワラビ、コケシノブ類、ヒメサジランなどのシダがその代表例です。

南又谷では、大きな転石が斜面の所々に見られ、その上に洞杉（どうすぎ）と呼ばれるスギの巨木が生育しています。岩の多い急斜面に成立したこのスギ林は、他ではあまり見られない独特のものです。

洞　杉

中流にはトチノキの巨木の森や、ウラジロガシの群落などが見られます。河口付近にはヤナギ類の林が広がり、その中には県内では数少ないタチヤナギの群落も見られます。

河口のヤナギ林

このような植物層の豊かな地域には、動物も数多く生息しています。ニホンザルは流域に沿っていくつかの群れを作っています。ニホンカモシカやツキノワグマも多く、時には人里近くまで来ることもあります。上流ではイヌワシが飛ぶ姿を見ることもあります。下流ではコアジサシが水中にダイブして魚を捕るのが観察されます。コアジサシは片貝川の中州で集団で繁殖しているようです。このほか下流域はカルガモ、キジ、アオサギ、コチドリ、オオヨシキリなど多くの野鳥の繁殖地になっています。

ニホンザル

このような自然を考えるとき、ともすれば珍しい植物、希少な動物などを個別にクローズアップして「保護しなければ」という場合がよくあります。しかし大事なのは、普通の植物、普通の動物が多数入り混じって成り立っている環境全体の保全であり、多様なものを含んだ環境の中で初めて貴重な動植物も存在できるということです。そういう意味では、片貝川は流域全体として、自然の多様性がよく保たれた貴重な地域ということができます。

峡谷の紅葉

シリーズ

埋没林の仲間たち ⑧

クリ（ブナ科）

クリといえば秋の味覚。栗ご飯、栗きんとん、栗まんじゅう、天津甘栗、モンブラン…クリの嫌いな人は少ないと思います。しかし、クリ拾いのときに鋭いとげで痛い思いをした人も多いはずです。

クリの実(種子)は、山の生き物たちにとっても貴重な食糧になっています。山で拾ってきたクリの中に虫が入っていることがあります。これはゾウムシなどの幼虫です。そのほか、サルやクマ、リス、ネズミ、鳥などもクリを食べています。

クリの木は、平地から低い山にかけてよく生え、いわゆる"雑木林"に多い木です。初夏に長い穂になった雄花と小さく目立たない雌花が咲き、山道を歩いていると独特の匂いが漂ってきます。

＊

これまでの魚津埋没林の調査では、クリの材、花粉、種子が見つかっています。現在の魚津市では、丘陵地帯のいたるところに生育しています。

クリの花

お知らせ

●3月までの行事予定

魚津の美しい自然と祭写真コンテスト作品展

○11月1日(日)～11月30日(月)

写真展　魚津の花々

○1月2日(土)～3月31日(水)

博物館教室　蜃気楼の実験と観察

○3月27日(土)

ご利用案内

○開館時間　午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）

○休館日　12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)

○入館料　• 大人(高校生以上)…510円　• 小中学生…250円

○交通　• ＪＲ北陸本線 魚津駅 / • 富山地方鉄道 新魚津駅 } 下車1.5km (タクシー…5分 / 徒歩…25分)

• 北陸自動車道魚津ＩＣから3km車で10分

特別天然記念物　魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765)22－1049

ホームページ　http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/

e-mail nekkolnd@city.uozu.toyama.jp